

### ■第3回 10月17日(土) 講演会「谷川ことすがと垂加神道」

中央公民館2F

ふるさと新聞会長 西田 久光氏

西田氏には会の催し事があるたびに新聞掲載を依頼し、会のアピールにご協力いただいています。今回も新書を買って求めて講演の準備をされたとか。多方面に知識豊富な西田氏は、話があちこち飛びながらも、土清と垂加神道については特に詳しく説明していただきました。以下プリントを抜粋します。

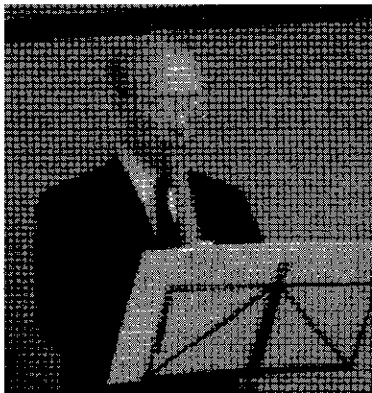
江戸朱子学および垂加神道の祖山崎闇齋は、全ての徳目の中心を『敬(慎み)』とした。『敬』なくしては神は心に宿ってこない。土清さんは京都遊学の際学んだ垂加派学説の固守という消極的態度に陥ることなく、当時最新の学問の成果を消化し自ら正しきを信ずる闇齋以来の学統をさらに強固ならしめんとしたのである。

亡くなる前年に反古塚を築いて「草稿類」を埋めたのも、この垂加神道のしきたりに因るものと思われまふ。機会があれば、また西田氏のお話をお聞きしたく思います。



### ■第4回 11月14日(土) 尺八の吹奏と講演会「土清旧宅改築の裏話」(再)旧宅にて

講師 元津市役所職員 茅原 弘氏



お話の前に会員で尺八の都山流教授萩野霞山氏による尺八の吹奏を2曲ほど聞かせていただきました。(「手向」「湖畔の夜」)

さて、数年前の会員勉強会に茅原氏をお迎えし、旧宅改築についてお話を伺いましたが、今回は更に詳しく縮尺100分の1の旧宅実測図をもとに、三軒に分けられていた時との図を比較しながら「奥の座敷は押入が壁になっていた。真ん中の座敷は表から裏まで通路になっていた。井戸はそのままである。瓦は古いのと新しいのと分けて使っている。柱は使えるものはそのまま、新しいものは工夫して古く見せる塗装をしてある」など、興味深いお話が次々と出てきて、文化財保存の難しさもよく分かりました。

### ■第5回 12月6日(日) 史跡ガイドとお茶会

旧宅と周辺

晴天に恵まれ、旧宅へ集まっていた方全員にまずは一服、表千家教授の馬場(副代表)と会員でお茶をさし上げました。土清の辞世の歌の掛け軸を掛け、椿と雪柳の照り葉を添えた花入れは丹波焼き、土清の茶室「狸庵」を偲び、表千家即中斎好み小四方棚、阿漕焼の水指、四日市万古の茶器、主茶碗は伊賀焼と趣向を凝らしました。お客様は江戸時代のお菓子を復元した土清まんじゅうに、当時をしのび満足げな様子でした。その後、ガイド係の会員に旧宅の展示物の説明を受け、谷川神社、反古塚、土清墓などへご案内し丁寧な説明を受け、熱心に聞いておられました。

### ■第6回 22年1月16日(土) ビデオ鑑賞と土清検定

中央公民館

三重テレビ制作の「谷川土清」のビデオを40分鑑賞。改訂版のこのビデオは、充実した内容になっていて、参加者の中には熱心にメモを取っている方もありました。時々コマーシャルが入るのもご愛敬。その後、参加者全員で50問の検定試験に挑戦しました。最初は気楽に始めていた方も皆さんだんだん真剣な面持ちに変わっていき、「よろしいですか」の問いかけに「もう少し(待つて)」の返答もありました。問題作成チームのチーフ竹内令さんに解説してもらいながら自己採点をしましたが、いかがだったでしょう。

「全問正解の方は手を挙げてください」と言いましたら、あちこちで「はい」の返事がありました。会員も「あれ、これはどちらだったかな」と迷っている問題もあり、なごやかなひとときでした。参加賞は①「谷川土清生誕300年記念」で会が作った真弓俊郎氏の原画の土清絵葉書3枚セットと②津市文化課で作った3色ボールペン。皆さん、笑顔で帰られました。

(結果感想)

ポスター・ちらし・報道と十分準備をして開いた一般向けの『洞津谷川塾』、毎回30人から50人(延べ150人ぐらい?)の参加者には非常に熱心な方があり、皆出席の方の中から二人(後で+1で三人)の新会員が増えました。「谷川土清はむずかしい」という認識を改めてもらうよう、小学校への出張講座の他に、これからも土清さんに親しんでいただける楽しい催しを開き続けていきたいと思っています。(以上まとめ馬場)